

入試の得点に直結する
5テーマを厳選！
本番前に“抜け・漏れ”
の最終チェックを

個別試験
+
共通テスト
に出る！

漢文

人之臣欲回之必
有_下大_二於_レ此_一者_上把_二
之_一庶_二幾_レ可_レ回_レ也。

頻出知識 集中講義

やることが多い受験勉強で、つい対策が手薄になりがちな「漢文」だが、覚えたことがそのまま入試の得点に結びつきやすい“お得な分野”でもある。そこで今回、得点確保のために必ず押さえておきたい漢文の頻出知識を厳選。入試問題をもとに試験で問われるポイントをわかりやすくレクチャーした。本番までに知識の“抜け・漏れ”を最終確認し、合格点突破につなげてほしい。

1 否定語が複数ある ↓ 『二重否定』の頻出3パターンで攻略!

『二重否定』は否定語が、特に一文の冒頭近くに2つ含まれている

▼ 否定語……「無」「非」「不」「莫」、再読文字の「未」など
常に下の部分を否定する

頻出パターン1 否定語が連続する形

例題 ①

2019年 早稲田大(一部改題)より

次^ノ日^ニ地震^ヒ、人居^{スル}傾^{コト}毀^ル無^シ数^ハ。凡^ソ小兒^ハ不^レ入^ラ之^ヲ肆^ス、無^シ不^レ摧^ス折^ル、竟^シ無^シ一^人得^ル免^ズ。

注：肆＝店のこと。

問 傍線部の返り点として最も適切なものを次の中から一つ選べ。

- イ 無^レ不^下摧^ス折^ル、竟^シ無^シ一^人得^ル免^ズ
- ロ 無^下不^レ摧^ス折^ル、竟^シ無^中一^人得^ル免^ズ
- ハ 無^レ不^二摧^ス折^ル、竟^シ無^一一^人得^ル免^ズ
- ニ 無^レ不^レ摧^ス折^ル、竟^シ無^一一^人得^ル免^ズ
- ホ 無^レ不^二摧^ス折^ル、竟^シ無^一一^人得^ル免^ズ

「無」が「不」を、「不」が「摧折」をそれぞれ否定するので、前半は「無^レ不^二摧折」の形になるとすぐにわかります。また、冒頭を見ると、「地震」から「地

震」が連想できるので、「摧折」は「肆(店)が(地震で)倒壊する」という意味だと想定できます。

後半の「竟無^シ」は「竟に^シ無^シ」という形になるので、「摧折せざるは無く、竟に一人の免るを得る無し」と訓読でき、全体の意味は「(店で)倒壊しないものはなく、ついに(被害を)免れた者は一人もいなかった」となります。

したがって、答えはホ。



【読み】 摧折せざるは無し

二重否定は結果的に肯定を表しますが、それが「強い肯定」なのか「消極的な肯定」なのかは文脈によります。現代語訳する際には「必ずやる」と意識しすぎず、基本の型に則って訳しましょう。

頻出パターン2 「不〇不」の形

例題 ②

2019年 金沢大(前期)一部改題より

二者皆不^レ可^カ不^ル講^ゼ。

問 現代語訳しなさい。

「不_レ可_レ不_二」は「(せ)ざるべからず(しなければならぬ)」なので、現代語訳は「**二者はどちらも講じなければならない**(問題だ)」となります。



「不〇不」の〇に入る漢字は、入試ではほぼ「可」「得」「能」のどれかです。〇に入る漢字によって、訳のニュアンスが次のように変わります。

「不〇不」の訳し分け

不 _レ 可 _レ 不 _二	不 _レ 得 _レ 不 _二	不 _レ 能 _レ 不 _二
〔読み〕(せ)ざるべからず	〔読み〕(せ)ざるをえず	〔読み〕(せ)ざるあははず
〔意味〕状況判断の結果、しなければならぬ	〔意味〕やむをえず、しなないわけにはいかない	〔意味〕能力・事情の問題で、しせずにはいられない

頻出 3 独特の送り仮名「ズンバアラ」の形

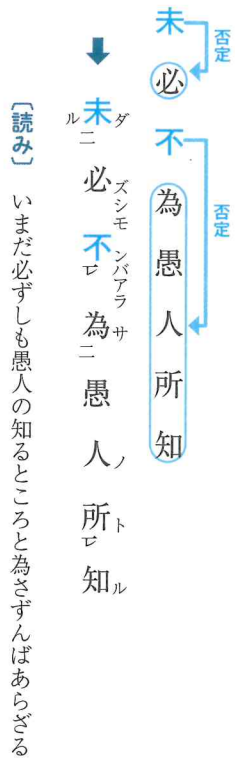
例題 3 1993年 センター試験(本試験)「一部改題」より

智者千慮必有一失。聖人所_レ不_レ知_レ未_二必_二不_レ為_二愚人_一所_レ知_レ也。

問 傍線部は、どのようなことを言っているか。次の①～⑤から一つ選べ。

- ① 聖人の知恵の及んでいる所には、愚人の知恵が反映されている。
- ② 聖人の知らないことは、もちろん愚人も知るはずがない。
- ③ 聖人の知らないことでも、愚人が知っている場合がある。
- ④ 聖人の関知しないことを、逆に愚人は必ず気にしている。
- ⑤ 聖人の知恵の及ばない所でこそ、愚人の知恵が生きる。

「未」は「必」を、「不」は「為愚人所知」を否定しています。「未必不」は「必ずしも〜ないとは限らない」と訳すので、直訳は「聖人の知らないことを、必ずしも愚人が知らないとは限らない」。選択肢と比較し、正解は③となります。



「不〇不」の形でも、〇に「必」「敢」が来た場合は、特別な読み方をします。

「ズンバアラ」の訳し分け

未 _レ 必 _レ 不 _二	未 _レ 敢 _レ 不 _二	未 _レ 嘗 _レ 不 _二
〔読み〕かならずしも(せ)ずんばあらず	〔読み〕あへて(せ)ずんばあらず	〔読み〕いまだかつて(せ)ずんばあらず
〔意味〕必ずしも〜しないとは限らない	〔意味〕しなないわけにはいかない	〔意味〕今まで一度も〜しなかったことはない

2 副詞をヒントに『部分否定』と『全部否定』を訳し分ける！

否定語が1つの場合、次のどちらかの見極めが必要！

▼『部分否定』⇨「〜とは限らない」

▼『全部否定』⇨「〜ではない、〜しなご」

頻出パターン1 否定語 ↓ 副詞の順 ⇨ 『部分否定』

部分否定か全部否定かを見極めるためには、まず否定語「不」と副詞の位置を確認しよう。

↑入試頻出はこっち！

「不」 ↓ 副詞の順 ⇨ 部分否定
副詞 ↓ 「不」の順 ⇨ 全部否定

副詞を見抜くヒントは
程度を表す表現：「常」「俱」「必」「甚」「復」など

例題 ① 2019年 宮崎大(前期) 一部改題より

麟_ニ之_レ為_レ靈、昭昭也。詠_ニ於_ニ詩、書_ニ於_ニ春秋、雜_ニ出_ス於_ニ伝記・百家之書。雖_モ婦人小子、皆_ニ知_ル其_ノ為_ル祥也。然麟之為_レ物、不_レ畜_ニ於_ニ家、不_レ常有_ニ於_ニ天下。

注：昭昭⇨明白の意味。

問 傍線部を現代語訳せよ。

出典は韓愈の『獲麟解』で、「麟」とは麒麟のこと。麒麟は中国では古くから亀、鳳凰、竜などと並ぶ四霊(瑞祥に現れる霊獣)として尊ばれている存在で、『礼記』や『詩経』、『春秋』など多くの書物にも登場します。

傍線部の前はそんな麒麟について、「麒麟が霊獣であることは、明白である。『詩経』に詠まれ、『春秋』に書き留められ、伝記や百家の思想家の書物にも様々に言及される。婦人や子供も皆、これが吉祥であると知っている。しかし、生き物としての麒麟は、家で飼われることはなく、」と説明しています。

傍線部は「不」 ↓ 副詞の順番なので、部分否定の構文だとわかります。

不_三 常_ニ 有_ニ 於_ニ 天下_ニ
副詞 否定
[読み] 常には天下にあらざ

麒麟が瑞祥(めでたい)ことが起きる前兆)に姿を現すとされることを踏まえ、現代語訳としては「**いつも世の中**にいるとは限らない」となります。仮に、もしこれが副詞 ↓ 「不」の順番だった場合は、

常_ニ 不_レ 有_ニ 於_ニ 天下_ニ
副詞 否定
[読み] 常に天下にあらざ

となり、「世の中にはいつもいない(＝実在しない)」という意味になります。
部分否定と全部否定を訳す際には、次のような副詞の読みの違いを意識しましょう。

『部分否定』『全部否定』の訳し分け	
部分否定	全部否定
不常	常不
〔読み〕常にはゝず	〔読み〕常にゝず
〔意味〕いつもゝとは限らない	〔意味〕いつもゝしない
不俱	俱不
〔読み〕ともにゝず	〔読み〕ともにゝず
〔意味〕両方ともゝとは限らない	〔意味〕両方ともゝしない
不必	必不
〔読み〕必ずしもゝず	〔読み〕必ずゝず
〔意味〕必ずしもゝとは限らない	〔意味〕必ずゝしない
不甚	甚不
〔読み〕甚しくはゝず	〔読み〕甚しくはゝず
〔意味〕あまりゝない	〔意味〕ひどくゝしない

頻出パターン2
例外パターン「復」に注意！

例題2 2020年 埼玉大(前期) 一部改題より

女自_レ此不_二復_タ識_ラ字_ヲ亦不_レ能_ハ算_{スル}命_ヲ矣。
注：算命＝人の運命を占うこと。

問 傍線部を口語訳しなさい。

清代の小説『子不語』からの出典。女(妹)が後天的に字が読めるようになり運命を占うようになったが、再び異変が起り、その能力を失うというあらすじ。
設問箇所は「不」↓副詞の順番なので、部分否定の構文。「二度とはゝしない」と読み、傍線部全体の口語訳としては「女はこれ以降二度と字を読まず」となります。



ところが、この「復」の場合は、副詞↓「不」の順番になって全部否定の構文になったとしても、読み方が変わりません。



しかし、訳には明確な違いがあり、「不復」が今までしていたことに対して「二度とはゝしない」という訳になるのに対して、「復不」は今まで特にしていなかったことに対して「今回もまたゝしない」と訳します。

本文(割愛)の内容からでも判断できますが、混同しやすいところなので注意しましょう。

- 部分否定・不復〔意味〕二度とはゝしない
- 全部否定・復不〔意味〕今回もまたゝしない

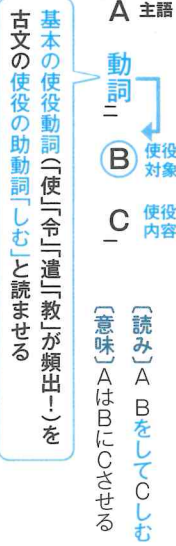
「不復…」の形は、「今までは…だったが」という前提に関係なく「二度としない」ことを強調するように訳す場合もありますが、この細かい部分の訳し分けにもこだわると難関大の記述問題でも加点が狙えるでしょう。

3 『使役』は動詞の種類・形に注意して書き下す!

▼『使役』は主語が誰に何をさせる
 使役の対象 使役の内容
 各要素を型に合わせて書き下すことが必要!

頻出パターン 1 基本の使役動詞を用いる型

入試で頻出の『使役』の基本形は次の通りです。



夫人之有一能而使後人尚之如此。

問 書き下し文として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

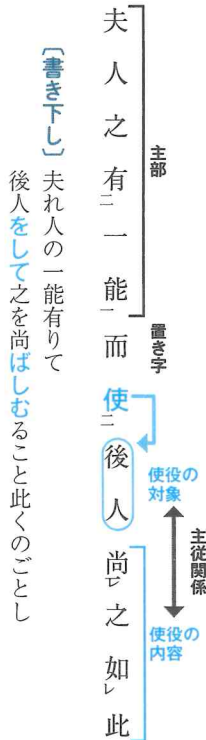
- ① 夫の人の一能有りて後人を使ひて此のごとく之を尚ぶ。
- ② 夫れ人の一能有りて後人をして之を尚ばしむること此のごとし。
- ③ 夫れ人を之れ一能にして後人をして之を尚ばしむること此のごとし。

例題 1 2021年 共通テスト 第2日程 一部改題より

き有り。

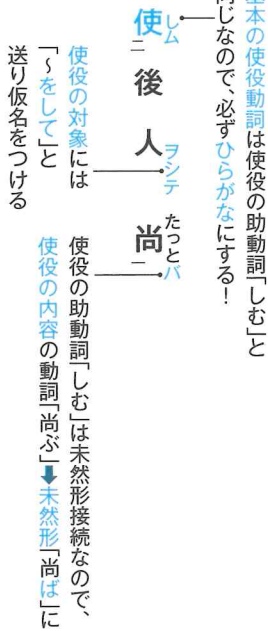
④ 夫れ人の一能にして後人を使ひて之を尚ぶこと此のごとき有り。

問題文に『使役の基本動詞』使があるのです、これを「BをしてCしむ」の形ではなく「Bを使ひて」としてしまっている①、④はまず外れます。また、置き字「而」で一度文が区切られるので、「此のごとき有り」と使役内容の主述関係が「而」を挟む③の形はとれません。



正解は②で、全体の意味としては「人間は一つ才能を持つことで、後の人にもこのように尊ばれるのだ」ということとなります。

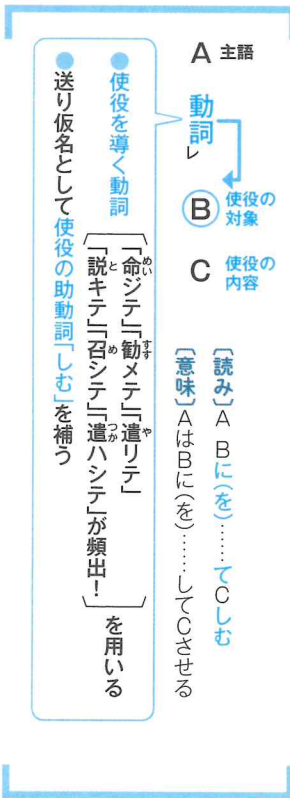
『使役』の書き下し①



頻出
パターン
2

使役を導く動詞を用いる型

難関大の入試では、基本の使役動詞を用いた形だけでなく、「使役を導く動詞」を用いた形がよく問われます。



形は異なりますが、例題①を

使^{シム}後^ニ人^ヲ尚^バ [書き下し] 後人をして尚ばしむ
命^{シテ}後^ニ人^ニ尚^{バシム} [書き下し] 後人に命じて尚ばしむ

と書き換えても表される意味は変わりません。あくまでそれぞれ使役の型に合わせて書き下しができるかがポイントとなります。

例題 2 2019年 山梨大(前期) 一部改題より

莊子出^テ於^リ山^ノ舍^ニ於^リ故^ノ人^ノ家^ニ。故^ノ人喜^ビ命^ニ豎^子殺^レ雁^而烹^レ之^ヲ。

注・莊子Ⅱ戦国時代の思想家、莊周。宇宙の根本原理である「道」の重要性

を説いた。

豎子Ⅱ子供の召使い。

雁Ⅱここはガチョウのこと。

問 傍線部を書き下し文にし、現代語に訳しなさい。なお「烹」は「に」と読みます。適宜活用させて用いなさい。

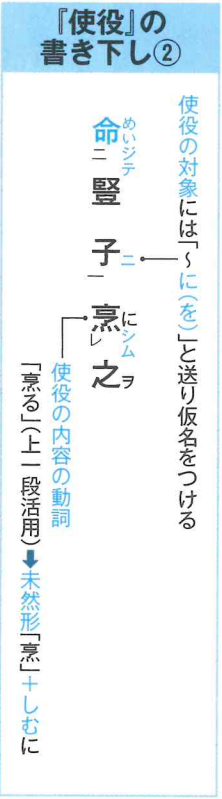
出典は『莊子』(山木篇)。故人(Ⅱ友人)が莊子をもてなすための料理について召使いに命じる場面です。

「命」は使役を導く動詞で、「Bに命じてしむ」の形をとります。

主語 (故人) 命ニ 豎子ニ 殺レ 雁 而 烹レ 之

「書き下し」 豎子に命じて雁を殺して之を烹しむ

また、現代語訳は注を参考にして「子供の召使いに命じてガチョウを殺して煮させた」となります。



難関大の入試では、主語や使役の対象にあたる部分が省略されている場合もあります。その際には前後の文脈からその要素を読み取り、使役の型に合わせて補いながら現代語訳する必要があります。

4 文末確認・置き換え・対象確認で『疑問』と『反語』を判別！

- ▼「疑問」Ⅱ「さだろうか」(問いかけて答えを求める)
- ▼「反語」Ⅱ「さだろうか、いやさくない」(反対の内容を強調)

頻出パターン 1 送り仮名があれば、文末をチェック

例題 1 2012年 東京大(前期) 一部改題より

若^シ以^テ水^ヲ 濟^マ水^ヲ。誰^カ 能^ク 食^ラ之^ヲ。
注：濟Ⅱ調理する。

問 わかりやすく現代語訳せよ。

後半は疑問詞「誰」があるので疑問か反語ですが、送り仮名がある場合は書き下した時の文末を見れば簡単に判別できます。

誰^カ 能^ク 食^{ラフ}之^ヲ

文末が連体形(ヤ) Ⅱ 疑問

〔読み〕誰か能く之を食らふ

〔意味〕誰がこれを食べるだろうか

誰^カ 能^ク 食^{ラハ}之^ヲ

文末が未然形(ン) Ⅱ 反語

〔読み〕誰か能く之を食らはん

〔意味〕誰がこれを食べられようか、いや誰もできない

↑こちらに決定！

今回は「ン」で終わっているⅡ反語であるとすぐにわかるので、「誰がこれを食べられようか、いや誰もできない」と現代語訳できます。前半は注を参考にして「水で水を調理するようなものだ」とできます。

押さえておきたい文頭疑問詞

孰 ^カ	如何 ^ニ	安 ^カ	誰 ^カ	何 ^ニ
〔意味〕どちらか	〔意味〕どうして	〔意味〕どうして	〔意味〕誰が	〔意味〕どうして
〔読み〕	〔読み〕	〔読み〕	〔読み〕	〔読み〕
反語	疑問	疑問	疑問	疑問
いつレカ……連体形(ヤ)	いかんゾ……未然形(ン) (ヤ)	いづクンゾ……連体形(ヤ)	たれカ……連体形(ヤ)	なんゾ……連体形(ヤ)
いつレカ……未然形(ン) (ヤ)		いづクンゾ……未然形(ン) (ヤ)	たれカ……未然形(ン) (ヤ)	なんゾ……未然形(ン) (ヤ)

※文末の(ヤ)はある場合とない場合があるが、意味は同じ。

頻出パターン 2 疑問詞を否定語に置き換える

例題 2 2020年 香川大(前期) 一部改題より

「歳^シ 饑^キ民^レ 餓^キ必^ズ 死^セ。為^リ二 人^ト 君^ト、欲^ス下^シ 殺^ス 其^ノ 民^ヲ 以^テ 自^ラ

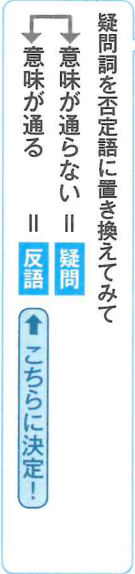
活^{キント}、其^レ誰^レ以^テ我^レ為^ル君^乎。是^レ寡^レ人^之命^固。固^{モトヨリク}尽^ス矣。子^{カレタ}無^ク復^タ言^{フコト}「矣。」
 注：歳^ニ穀物のみ。 饑^ニ凶作。

問 傍線部を、適切な言葉を補いつつ現代語訳せよ。

送り仮名がないので、傍線部だけでは疑問と反語の区別はつきません(文末に助字「乎」があっても疑問の形をとり得ることに気を付けましょう)。

このような時は、「疑問詞を否定語に置き換え」てみます。置き換えて、意味が通れば反語だと判別できます。否定語に置き換えたものを直訳すると、「そもそも私を君主とは見なさないではないか」。これは傍線部直前の「其の民を殺し以て自ら活きんと欲すれば」、つまり「民を殺して自分が生きようとすれば」という内容とつなげて読むことができます。

其^{疑問詞}誰^{疑問}以^テ我^レ為^ル君^乎 ?
 ← 其^{否定語}否^{疑問}以^テ我^レ為^ル君^乎 ?
 [読み]其れ誰か我を以て君と
 [読み]其れ我を以て君と為さざるや
 [意味]そもそも私を君主とは見なさない



したがって、これは反語と判断でき、「そもそも誰が私を君主と見なすだろうか、いや誰も見なさない」と現代語訳できます。

頻出パターン 3 問いかけの対象と返答を確認する

例題 3 2019年 神戸大(前期)一部改題より

初^メ、孫^ニ權^{ヒテ}謂^フ呂^ニ蒙^ニ曰^ク「卿^ハ今^当塗^ニ掌^ル事^ヲ、宜^{シク}學^ブ問^ニ以^テ自^ラ開^ス益^ス。」蒙^{スルニテ}辭^ス以^テ二^軍中^多務^ヲ。權^曰「孤^ク豈^ニ欲^ス三^卿治^{メテ}經^ヲ為^{ルコト}博^ト士^一邪[、]但^ダ當^ニ涉^シ獵^シ、見^ル往^事一^耳。卿^言二^多務^一、孰^カ若^シ孤^{。孤}常^ニ読^ミ書^ヲ、自^ラ以^テ為^ル大^有レ^リ所^レ益^{スル}(中略)」

注：当塗^ニ要路に在ること。重要な地位にいて権力を握っていること。
 孤^ニ中国古代の王侯の自称。わたし。
 治經^ニ『礼記』『春秋』などの經典を学んで身につける。
 博士^ニ儒教を教授する官職。
 涉獵^ニ書物を広く読みあさること。

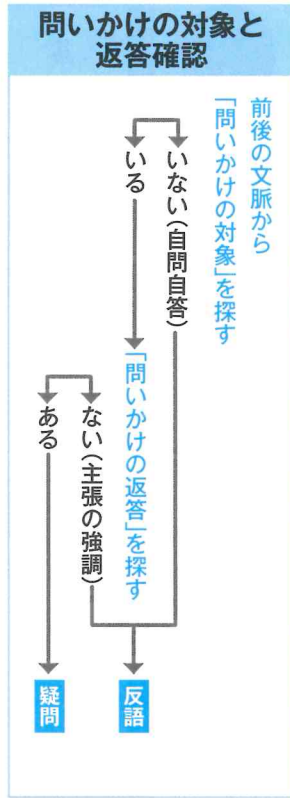
問 傍線部を現代語訳しなさい。

疑問詞は「孰」。孫權は呂蒙に「孰若孤」と問いかけていますが、呂蒙は答えておらず、そのまま孫權が「孤(わたし)常読書」と語り続けています。つまり問いかけは形式上のものだと考えるので、これは反語です。訓読すると、「卿多務と言へども、孰か孤の若くならん(や)」となります。

話者 孫權
 問いかけ 「孰若孤」 (意味)誰が私に及びますか?
 対象 呂蒙
 返答 「×」なし || 反語
 ↑こちらに決定!

孫権は「卿……自開益」(あなたは今、重要な職務を務めるにあたり、学問をして自分を啓発するべきです)と勧めたが、呂蒙は多忙を理由にこれを断つた。これに対し、孫権は反語表現を用いながらより強く説得しようとしているのです。

それを踏まえて現代語訳すると、「あなたは多忙だと言うが、誰が私ほど忙しいだろうか、いや誰もいない」となります。



頻出パターン 4

疑問詞をとらない『反語』

例題 4
則学固豈可少一哉。

問 傍線部のここでの解釈として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

- ① やはり鍛錬をおろそかにするにちがいない
- ② きつと稽古が足りないにちがいない
- ③ なんと才能に恵まれないことだろうか

2024年 共通テスト第2日程 一部改題より

- ④ どうして努力を怠ってよいだろうか
- ⑤ なぜ若いときから精進しないのか

「豈」は疑問詞ではありませんが、反語表現として頻出。「(豈) (可) (少) (一) (哉)」は「べけんや」と読むので、傍線部全体では「豈に以て少くべけんや」となります。

正解は反語のニュアンスが唯一含まれている④。
「豈」は反語として使われることが多く、疑問として使われることはほとんどないため、出てきた瞬間に反語と判断できます。

このように出てきたらほぼ反語表現だと確定できる頻出の読みや形には、次のようなものがあります。

読みや形で確定できる反語表現

可ニケン
可ニ一平

豈ニシ
乎

独リシ
乎

敢ヘテラン
不ニ一平

- 【読み】くべけんや
- 【意味】くできるだろうか、いやできない
- 【読み】あに〜んや
- 【意味】どうして〜か、いや〜ない
- 【読み】ひとり〜んや
- 【意味】どうして〜か、いや〜ない
- 【読み】あへて〜ざらんや
- 【意味】どうして〜しないだろうか、いやきつとする

「独り」は限定「ただ……(だけ)」の用法でも頻出！
送り仮名「のみ」
文末の助字「耳」「爾」「已」などを伴う限定反語
と見当をつけてから、意味を当てはめて判断する

頻出パターン5

『反語』+『限定』による累加の形

累加とは、限定「ただ……だけでなく」に、さらに何かを重ね加えることで、強い表現になること。大きく分けて、次の2パターンがあります。

- 『反語』+『限定』による累加
 - 『否定』+『限定』による累加
- ↑入試で最頻出!

例題 5 2020年 岐阜大(前期) 一部改題より

嗚呼、世之人、虎、豈独民也哉。

注：人虎＝虎を装う人。この場合、強者を装い悪事を働く者。
民＝文中では、ある男をこう呼んでいた。

問 現代語に訳しなさい。

出典は宋濂の『文憲集』より「人虎説」。ある男が虎のしわざと見せかけて強奪を繰り返していたが、ある時その妻が夫を真似して商人を襲ったところ返り討ちに遭い、逃げた足跡から人間の仕業だと露呈してしまった、というあらすじ。物語の最後が、右の一文によって締めくくられています。

『限定』は単純で、次のうちのどちらかがあれば限定だとわかります。

限定の副詞「唯々」(のみ)「独り」(のみ)

「唯だ」はほかに「惟」「只」も頻出!

文末の助字「のみ」……「耳」「爾」「已」

文中には「独」があり、これは「限定」か「反語」ですが、前ページの吹き出しのように判断しようとする時、送り仮名も助詞もないためわかりません。

着目するのは、先ほど「反語」の用法で登場した「豈」です。「豈」と「独」があることから、「豈に独り」のみならんや(どうしてただけだろうか、いや、ただけでなく、～も)という反語+限定による累加の構文だとわかります。

虎を装い強奪を繰り返したある男だけでなく、それを真似た男の妻もまた人虎(強者を装い悪事を働く者)であり、「そのような酷い人物が世の中には少なくない」他にもいる、とても多い」という強い嘆きが累加によって表現されていることを訳出できるとよいでしょう。

したがって、現代語訳としては「ああ、世の中で強者を装い悪事を働く者は、どうしてこの男だけだろうか、いやそつではない」となります。

『反語』+『限定』による累加

豈 唯 (ダニ ノミナランヤ)

「読み」あにただに～のみならんや

「意味」どうして～だけだろうか、いや～だけではない

何 独 (ゾリ ノミナランヤ)

「読み」なんぞひとり～のみならんや

「意味」どうして～だけだろうか、いや～だけではない

累加には、他に「否定」+「限定」によるパターンもあり!

不 唯 (独) (ダニリ ノミナラ)

「読み」ただに(ひとり)～のみならんや

「意味」～ただ～だけではない

非 唯 (独) (スダニリ ノミナ)

「読み」ただに(ひとり)～のみにあらず

「意味」ただ～だけではない

5 『受身』と『比較』は特有の文字・構文で押さえる！

基本知識だけで解ける問題から、読解を絡めた発展的な問題まで様々！

▼ 『受身』 『受身』 『受身』 『受身』 『受身』

▼ 『比較』 『比較』 『比較』 『比較』 『比較』

頻出パターン1 特有の文字から『受身』を押さえる

『受身』は、特有の文字から次の2パターンで判別できます。

① 返読文字「見」「被」「為」「所」を

古文の受身の助動詞「る」を「らる」と読ませる

● 書き下す際にはひらがなにする

● 未然形接続なので直前を未然形に

② 為_レニ A 所_レ B 「読み」AのBする所と為る

例題 1 2021年 東京大(前期) 一部改題より

凡_レ為_レ下_レ者、為_レ上_レ所_レ信、然_ル後_レ言_レ有_レ所_レ取。

問 傍線部を現代語訳せよ。

傍線部は「為」「所」から②の構文とわかり、「上の信じる所と為る」と訓読できます。直前の「下者」(＝臣下)と対応させ、「上」は「上者」(＝君主)のこと。したがって、現代語訳は「上にある者に信じられて」となります。

頻出パターン2 基本構文から『比較』を押さえる

例題 2 2021年 広島大(前期) 一部改題より

問 傍線部を書き下せ。

且_レ有_レ禄_レ而_レ配_レ無_レ禄_レ則_レ離_レ不_レ義莫_レ大_レ焉。

『比較』は構文が決まっています、これは「莫_レ大_レ焉」の構文がわかればすぐに「不_レ義焉より大なるは莫_レし」と書き下せます。直前の「禄有れば而ち配し、禄無くんば則ち離るるは」(財産があれば結婚し、財産が無ければ離婚するのは)を受け、「これより不義の大きいことはいけません」。

『比較』の頻出4構文

A_ハ 不_レ如_レ若_レ B_ニ 「読み」AはBにしかず
 「意味」AはBに及ばない(AよりBのほうがよい)

莫_レ如_レ若_レ 「読み」〜にしくはなし
 「意味」〜に及ぶもの(こと)はない

莫_レニ A_ハ 於_レ B_{ヨリ} 「読み」BよりAはなし
 「意味」BよりAであるものはない

莫_レニ 焉_{ヨリ} 「読み」これより〜(なる)はなし
 「意味」これより〜であるもの(こと)はない

「焉」を「これ」と読むのはこの構文のみ！

頻出パターン 3

置き字「於」は直前の品詞から識別

例題 ③

2020年 福島大(前期) 一部改題より

人臣 欲^{スレバ} 回^{ラント} 之、必 思 有 大 於 此 者 把^{セバ} 攬^ヲ 之、庶^チ 幾^{カク} 可^{キニ} 回^{ラス} 也。

注：回^レここでは、方向を変えさせること。
把^セ攬^ヲ引きとどめること。

問 傍線部を書き下しなさい。

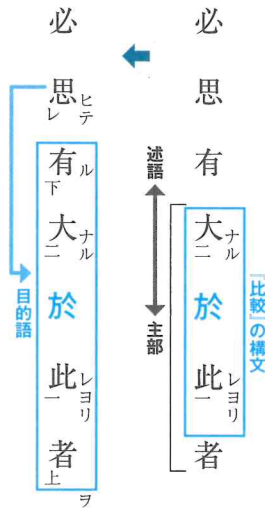
置き字「於」は「受身」でも「比較」でもよく使われ、直前の品詞で識別することが出来ます。



そこで、文中の「於」とその直前の「大」に着目すると、「大」は形容詞なので、「比較」の構文を内蔵しているとわかります。

必 思 有 大 於 此 者

ところが、「A C 於 B」の構文に当てはめようとすると、Aに当たる主語が直前にはないので、いったん下に読んで「此れより大なる者」と名詞にします。「大^{ナル}於^レ此^レ一者^ニ」が「有る」という主述の関係に着目してくくってから、最後に「有^ル大^{ナル}於^レ此^レ一者^ニ」を「思う」の目的語とすれば、完成です。



「書き下し」必ず此れより大なる者有るを思ひて



難関大の書き下し問題は少々難しい場合がありますが、根本にある「比較」と「受身」の判別自体はさほど難しくありません。これらはたびたび入試に出題され、最後に差がつく部分になりやすいので、試験までにしつかり押さえておきましょう。